

49. 水わさび

病害虫名 (F:菌類病、B:細菌病、V:ウイルス病、O:その他の病原体)

病害虫名	防除時期	耕種的防除方法
軟腐病 (B) 墨入病 (F)	植付時期	1. 実生苗を使用する。 2. 株分苗は無病苗を使う。 3. 栽培水温は13~15℃を保ち、水温の上昇に注意する。 4. 日覆をする。 5. 傷口が菌の主要な侵入門戸になる。
アオムシ カブラハバチ アブラムシ類 ナガメ	5月~9月	1. 寒冷紗で被覆する。寒冷紗のすそはしっかりと密閉する。
トビムシ	5月~9月	1. 砂作りにしてトビムシの隠れ家を無くす。

50. 畑わさび

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
2	ロブラール水和剤	定植時に20時間苗浸漬し、更に定植後に灌注する。	定植時	1回	
			定植後(但し、収穫30日前まで)	3回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
21	ランマンフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤーフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
4	(ジノテフラン) アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
3	トレボン粒剤	散布	収穫14日前まで	1回	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
3	トレボン粒剤	植溝土壌混和	植付時	1回	
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 使用回数は栽培期間内の回数であり、播種から収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。
- 注4) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注5) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
軟腐病 (B)	植付時期	1. 実生苗を使用する。 2. 株分苗は無病苗を使用する。 3. 日覆をする。	1. 傷口が菌の主要な侵入門戸となる。
白さび病 (F)	生育期間	[参考農薬] 1. アミスター20フロアブル、又はランマンフロアブルの2,000倍液を散布する。	1. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
墨入病 (F)	定植時	1. 定植時に苗をロブラール水和剤1,000倍液に20時間浸漬する。	1. 実生苗を使用する。 2. 株分苗は無病苗を使用する。 3. 罹病の恐れのある苗を使う場合は、ロブラールの苗浸漬処理を行う。 4. 傷口が菌の主要な侵入門戸となる。
	定植後	1. ロブラール水和剤500倍液を1㎡当り3ℓ灌注する。	
コナガ	発生初期～収穫期	1. トアロー水和剤CTの1,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. バシレックス水和剤1,000倍液を散布する。	1. BT生菌剤(バシレックス)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アブラムシ類	5月～9月	1. アドマイヤーフロアブル4,000倍液を散布する。	1. 発生初期に散布する。 2. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アオムシ	5月～9月	1. 寒冷紗で被覆し、すそはしっかり密閉する。 [参考農薬] 1. トアロー水和剤CT、又はバシレックス水和剤の1,000倍液を散布する。	1. BT生菌剤(バシレックス)は蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
カブラハバチ	5月～9月	1. 寒冷紗で被覆し、すそはしっかり密閉する。	
ナガメ	5月～9月	1. 寒冷紗で被覆し、すそはしっかり密閉する。	
ナトビハムシ	植付時	[参考農薬] 1. トレボン粒剤を10a当り3kg植溝土壌混和する。	1. トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
	生育期間	1. 越冬成虫発生初期の4月上旬(花わさびの収穫14日前まで)にトレボン粒剤を10a当り3kg、5月上中旬にジノテフラン(アルバリン、スタークル)顆粒水溶剤の2,000倍液を散布する。	1. 春先の気温が高い年は産卵始期が早まることがあるため、成虫の発生を認めたら速やかにトレボン粒剤を散布する。 2. トレボン粒剤の散布適期を逸した場合には、ジノテフラン(アルバリン、スタークル)顆粒水溶剤の2,000倍液を4月下旬～5月上旬と、5月中下旬に2回散布する。 3. トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 4. アルバリン、スタークルは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)